

第三者認証の効果的な活用

「ISMS 適合性評価制度」と「プライバシーマーク」の認証基準に準拠した運用をグループ全体で推進しながら、認証取得にも積極的に取り組んでいます。

▶ 第三者認証の活用目的

キヤノン MJ グループでは、情報セキュリティマネジメントシステム (以下 ISMS) や個人情報保護マネジメントシステム (以下 PMS) を均質かつ迅速に行うために、第三者認証の基準規格 (JIS 規格) に基づいて構築しています。

なお、こうした取り組みについて客観的な評価を受けるため、「ISMS 適合性評価制度」や「プライバシーマーク」といった第三者認証を活用しています。

▶ ISMS の推進による「顧客満足度の向上を支える業務改善活動」の具現化

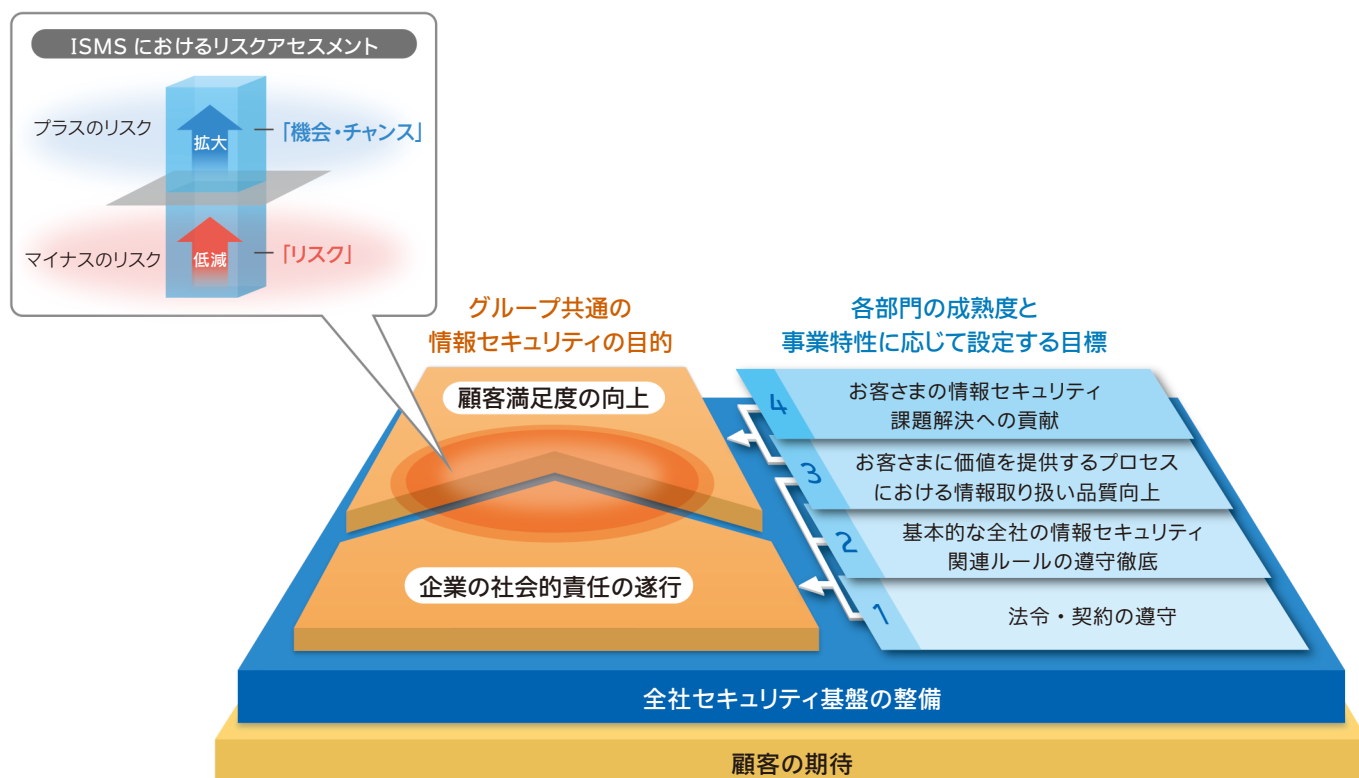
私たちの ISMS 活動は、大きく 2 つの目的を掲げています。1 つは、情報セキュリティ関連の事故などにより、お客さまにご迷惑をおかけしないという「企業の社会的責任の遂行」という目的です。これに加えて、業務上の情報取り扱い品質を向上させることにより、お客さまにより良いサービスをご提供して、「顧客満足度の向上」を図るという目的も掲げています。

この 2 つの目的を達成するために、「法令・契約の遵守」「基本的な全社の情報セキュリティ関連ルールの遵守徹底」「お客さまに価値を提供するプロセスにおける情報取り扱い品質向上」「お客さまの情報セキュリティ課題解決への貢献」の 4 つの目標を、各部門の成熟度と事業特性に応じて設定し、活動を行っています。

設定した目標を達成するために、部門ごとに異なるリスクアセスメントを行っています。全社の情報セキュリティ基盤強化を担う部門では、JIS Q 27001 の管理策をもとにして、環境変化を踏まえたベースラインアプローチを行い、情報セキュリティ対策の最適化を行っています。

また、各事業部門では、お客さまの期待を明確にした上で、その期待に応えるべく、それぞれの業務プロセスの改善を目指しています。このときのリスクアセスメントでは、マイナスリスクの低減だけでなく、プラスリスク (機会やチャンス) の拡大も視野に入れた検討を行っています。このような活動を通じて、お客さまにご満足いただけるサービスの提供に結び付けています。

● ISMS の推進



▶ プライバシーマークを活用した個人情報保護の強化

キャノン MJ グループでは、個人情報保護マネジメントを法律より一段高い管理レベルで実現するため、プライバシーマークの要求事項である JIS Q 15001 に準拠した個人情報保護マネジメント

をグループ全体で推進しています。

なお、プライバシーマーク認証は事業上の必要性に応じて効果的に活用しています。

▶ 個人情報保護の高いレベルでの「均質化」と「最適化」に向けた取り組み

キャノン MJ グループは、JIS 規格に準拠したマネジメントと、グループ共通の各種対策、独自に構築した「個人情報データベース管理システム」のグループ全体への導入などによって、個人情報管理の PDCA のしくみを「均質化」しています。

一方で、事業内容によってより高い個人情報保護レベルが求められる場合は、それに応じて追加のリスクアセスメントや、IT セキュリティ対策を行うことで「最適化」しています。

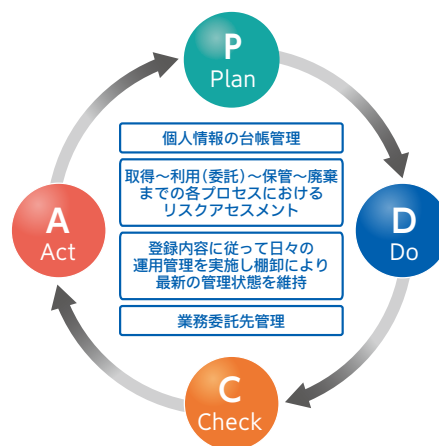
法律より高いレベルでのマネジメントを効果的に実現する管理システム

「個人情報データベース管理システム」では、法律や規格、社内ルールを熟知していなくても、個人情報の取得から廃棄に至るプロセス内のリスクや対策項目の確認と手続きを行うことができます。

たとえば取得プロセスでは、取得方法が書面かウェブフォームかによってリスクが異なるため、それぞれで発生するリスクと対策を自動的に画面に表示します。そのほか、利用方法、保管場所など、取り扱いフローによって異なるリスクに対しても、同様に最適なリスク対策を漏れなく行うことができます。

登録された情報は上長ならびに個人情報保護全社事務局による承認処理が行われ、自動的に全社の個人情報管理台帳が完成します。

また、個人情報の取り扱いを委託している委託先の評価結果や契約内容を一元管理する機能を持っているため、部門間の重複管理を避けることができます。



個人情報データベース管理システムで実現できること

- 全社管理台帳の自動生成と最新状態の維持
- 取得から廃棄までの各プロセスにおけるリスクアセスメント
- 法的要求事項や JIS 規格に沿った運用の確認
- 承認ワークフローによるマネジメント
- 業務委託先の評価や契約内容の一元管理

▶ マネジメントシステムの効率的な運用

ISMS や PMS などのマネジメントシステムでは、それぞれ教育や監査、レビューなど共通する取り組みがあります。そこで、これらの共通事項をまとめて行い、リスクアセスメントなども重複しないよう連携して実施することにより効率化しています。

さらに事業特性に応じて、品質マネジメントシステム (QMS) や IT サービスマネジメントシステム (ITSMS) などを導入している部門では、これらとの連携も図っています。

▶ ISO/IEC 27001・プライバシーマーク認証取得状況

(2020年4月1日現在)

会社名	ISMS 認証	Pマーク 認証
キヤノンマーケティングジャパン株式会社	●	●
キヤノンシステムアンドサポート株式会社	●	●
エーアンドエー株式会社	●	
キヤノン IT ソリューションズ株式会社	●	●
スーパーストリーム株式会社	●	●
クオリサイトテクノロジーズ株式会社	●	
佳能情報系統 (上海) 有限公司	●	
キヤノンビズアテンダ株式会社	●	●
エディフィストラーニング株式会社	●	●
キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社	●	●
キヤノン ITS メディカル株式会社	●	●
キヤノンカスタマーサポート株式会社	●	●
キヤノンビジネスサポート株式会社	●	

▶ ISO/IEC 15408 認証取得製品

製品については、「imageRUNNER ADVANCE」において、国際標準に基づいたセキュリティ対策を実装し、IEEE Std. 2600.1™-2009やIEEE Std. 2600.2™-2009に適合したISO/IEC 15408 (コモンクライテリア (CC)) 認証を取得しています。

● 認証製品

(2020年4月1日現在。評価・認証中含む)

- imageRUNNER ADVANCE C3500シリーズ
(IEEE Std. 2600.2™-2009)
- imageRUNNER ADVANCE C5500シリーズ
(IEEE Std. 2600.2™-2009)
- imageRUNNER ADVANCE C7500シリーズ
(IEEE Std. 2600.2™-2009)
- imageRUNNER ADVANCE C356F/C356F Ⅲ
(IEEE Std. 2600.2™-2009)
- imageRUNNER ADVANCE 4500シリーズ
(IEEE Std. 2600.2™-2009)
- imageRUNNER ADVANCE 6500シリーズ
(IEEE Std. 2600.2™-2009)
- imageRUNNER ADVANCE 8500シリーズ
(IEEE Std. 2600.2™-2009)